

| | | | | | |
|------|--|----------|-------------|-------|--------|
| | | | | 科目コード | 237 |
| 科目名 | 在宅看護論 (Home Care Nursing) | | | 開講学科 | 看護学科 |
| 選択区分 | 必修 | 単位数 (時間) | 2 単位 (45時間) | 履修時期 | 3 年次前期 |
| 担当教員 | 窪田 静、長尾 奈美 | | | 科目区分 | 専門科目 |
| 授業概要 | 様々な療養の場で生活する在宅療養者を長い時間軸で捉え、看護していく方について、実践例を示しながら、演習や発表を通して教授する。 | | | | |
| 授業目標 | 外来・訪問・病棟・入所施設・通所施設等、生活の場それぞれの療養者像と看護を理解する。生活の継続性を支える視点から在宅看護をとらえ、在宅ケアチームでの看護師の役割を理解する。在宅療養者の多面的な背景や全体像を捉え、「その人らしく生きること」を支える方法を理解する。生活空間拡大とQOL向上を図るための、基礎的な生活環境整備とケア技術を学び、経験する。 | | | | |

授業内容

| 回 | 項 目 | 内 容 | 担当者 |
|--------|--|---|-------------|
| 1～2 | 在宅看護概論 | 在宅看護の概念 社会的背景と歴史 国際比較 対象 専門性 | 窪田静 |
| 3～4 | 在宅看護の制度とシステム | 介護保険制度 医療保険制度 訪問看護制度 在宅医療 診療報酬 訪問看護ステーション | 窪田静 |
| 5～6 | 在宅ヘルスアセスメント | 意思伝達 呼吸 摂食 嚥下 褥瘡 感染予防等 | 窪田静 |
| 7～8 | 在宅医療支援 | 在宅酸素療法 中心静脈栄養法 人工呼吸器療法等 | 窪田静 |
| 9～10 | 在宅療養支援技術 | 自律度を高め、身体損傷を防ぐ ポジショニング 移乗 移動 シーティング 食事 自宅浴室での入浴 排泄 | 窪田静 長尾奈美 |
| 11～12 | 在宅療養支援技術 演習 | | |
| 13～14 | 在宅療養支援技術 | 二次障害を減らし、寝たきりを起こす ベッド上移動 (摩擦軽減シート・グローブ) ベッドの背上げ膝上げ 背面開放座位 | 窪田静 長尾奈美 |
| 15～16 | 在宅療養支援技術 演習 | | |
| 17～18 | 対象理解と支援 | 全人的理解 活動制限のアセスメント 意志決定・自己実現を支援する視点と技術 | 窪田静 |
| 19～20 | 在宅看護過程 | 医療依存度の高い在宅療養者 (神経・筋変性疾患) 在宅移行支援期の高齢者 | 窪田静 長尾奈美 |
| 21 | 対象理解と支援 在宅看護の制度とシステム | 障害者への総合的な支援 障害者総合支援法 (教育協力者) | 窪田静 |
| 22～23 | まとめ | 在宅看護論実習を前に学びを統合し、「在宅看護論 を学ぶ目的と課題」を検討する | 窪田静 長尾奈美 |
| 成績評価方法 | 提示した課題へのレポートと小テストにより評価する。 | | |
| 教科書 | 窪田静「生活環境整備のための福祉用具の使い方 (自己学習用 DVD 付)」(看護協会出版会) 地域ケアマネジメント論で教科書指定; 宇都宮宏子・山田雅子 (2014)「看護がつながる在宅療養移行支援 病院・在宅 の患者像別看護ケアのマネジメント」(日本看護協会出版会) 配布; 在宅医療と訪問看護のあり方検討委員会「訪問看護活用ガイド」(在宅医療助成勇美記念財団、 在宅医療テキスト編集委員会) (2009)「在宅医療テキスト」(在宅医療助成勇美記念財団) | | |
| 備 考 | 地域ケアマネジメント論の進捗状況等により、授業スケジュールを変更する可能性があります。 | | |